

関連項目：教育活動プラン①

一人ひとりのよさを承認・賞賛する機会を増やす

目的

本校の児童は、素直で、友達とも仲良く元気に毎日を過ごせています。不登校や問題行動もなく、安定した学校だといえます。ただ、家庭や地域からも大切にされ、少人数ということもあり、比較的依存心が強く、自分から進んで行動するなど自主性という面がやや弱いです。そこで、一人ひとりの個性やよさを互いに認めることで、自尊感情を高め、自主性を高めていこうと願い、「一人ひとりのよさを承認・賞賛する機会を増やす」ことにしました。

内容

● 友達のやさしさを見つけ、帰りの会で紹介

本校では、「やさしさいっぱい学校」を合い言葉に、やさしさ運動に取り組んでいます。児童が見つけた「されたやさしさ」「見つけたやさしさ」を毎日帰りの会で紹介し合っています。各教室には、やさしさ運動の掲示があり、見つけた児童も、見つけられた児童も、そのたびにシールをはり、足跡を残しています。特に印象に残るような、また、手本になるようなやさしさは大きなシールを貼るなどの工夫も各学級でしています。教室に掲示していくことで、友達のやさしさに気づいたり、やさしい行いを進んでしようとする意欲化につながったりしています。



教室に掲示

● 全校朝会で各学級のやさしさを紹介

年6回、全校朝会で、児童会の役員がやさしさを紹介する場を設けています。必ず、全校生が一度はみんなの前で紹介されるように、教師は指導や配慮もしています。紹介されたやさしさは、教師が「進んでみんなのために働くやさしさ」「自分から気づいて手伝うやさしさ」「心を元気にしてあげるやさしさ」「みんなのために勇気を出せるやさしさ」のように分析したり、コメントを入れたりしながら、そのよさを価値づけていきます。また、やさしい行いを見つけた人も紹介し、賞賛しています。全体の場で認められることは、児童の自信や、お互いに認め合うことにつながっています。



全校朝会で紹介

● やさしさの内容の改善化

3学期には、やさしさの内容を改善するために、児童会が「学級や学校のためになるやさしさ」を見つけようと、「あいさつ」「そうじ」「整頓」「廊下の歩き方」の視点を示して、全校生に呼びかけました。その結果、2月のやさしさ紹介では、「あいさつリーダーさんの元気なあいさつが気持ちがいいです。」「〇〇さんは、自分の仕事でもないのに進んで手伝ってくれます。」「〇〇さんは静かに隅々まで掃除ができていました。」等、質の高まりが見られました。



児童玄関に掲示



児童の呼びかけ

成果

こうした取り組みをすることで、友達のよさを確かめられたり、自分が認められたりする喜びが、自信や満足感や自尊感情につながっているようです。

児童による意識調査では、「学校が楽しい」が100%、「友達にやさしくできている」が100%「友達のやさしさを見つけれられている」が87.3%、「自分のことが好きですか」が96.3%という結果でした。また、昼休みには学年の枠を超えて外遊びができています。「欠席0100日」も12月22日に達成できました。

さらに、効果を上げるポイントとして、学校便りで全校生のやさしさを紹介し、家庭や地域に広げたり、やさしさを見つけれない児童に個別指導を行ったりして、意識化や継続化を図っていきます。